お互いの個性を認め合う居心地のよい学級づくりの工夫
～ＣＳＳを取り入れた班学習活動と構成的グループ・エンカウンターを取り入れた学級経営～

生徒指導・教育相談班　　田村　佳代（小学校教諭）

研究の概要

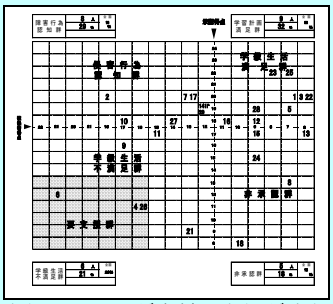
児童がお互いの個性を理解し、居心地のよさを感じながら学校生活を送れるということは、大切なことである。しかし、教師のみとりだけでは、児童がクラスの中で自分のこと、友達のこと、学級のことをどのように感じているかを適切に把握することは不十分だと考える。そこで、客観的な学級の実態を把握できる学級満足度尺度を活用し、実態にあった「学級生活で必要とされるソーシャルスキル（ＣＳＳ）」のトレーニングと「構成的グループ・エンカウンターを（ＳＧＥ）」を実施する。併せて、さらに個に応じた支援を行うことで安定した人間関係を築き、居心地のよい学級づくりになると考え、本テーマを設定した。

学級満足度尺度とは

学級満足度尺度（以下Ｑ－Ｕと記す）は、児童の学級生活での満足度を承認得点との２つの尺度で検査し４つのタイプ（学級生活満足群・非承認群・侵害行為認知群・学級生活満足群）で把握するアンケートである。学級全体の様子と児童一人一人の状態を客観的に理解することができる。

実践例

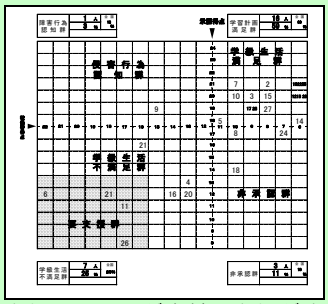
４月:学級がスタートした時期



学級のルールが定着し学級がまとまりつつある状態になってきている。引き続き、実態に合った CSS と SGE を取り入れると同時に、支援を必要とする児童に対しては、参与観察の上で、個に応じた個別支援を行っていくこととした。

CSS
友達の話は最後まで聞く。
相手の聞こえる声で話す。
SGE
ふわふわ言葉
ちくちく言葉
質問じゃんけん

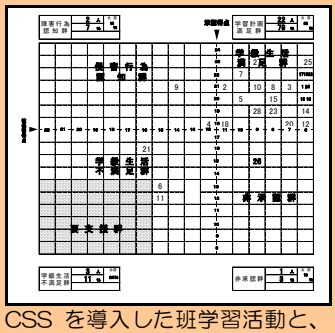
９月:学級の輪ができ始めた時期



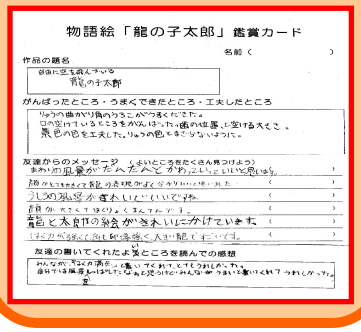
学級のルールが定着し学級がまとまりつつある状態になってきている。引き続き、実態に合った CSS と SGE を取り入れると同時に、支援を必要とする児童に対しては、参与観察の上で、個に応じた個別支援を行っていくこととした。

CSS
相手がいやな気持ちにならないように話す。
親しくない人でも区別しないで話をする。
SGE
サイコロトーキング・なんでもバスケット・Ｘさんからの手紙・言葉のプレゼント

12月:居心地のよい学級ができた時期



CSS を導入した班学習活動と、SGE を通して、学級生活を送るためのルールが定着すると同時に、自分のよさ・友達のよさを伝え合い、お互いのよさを理解し合えるようになり、児童は学級の中で、友達に認められていると感じながら過ごしている。



成果と課題

担任の参与観察による主観的理解とＱ－Ｕを活用したデータによる客観的理解の両面から実態把握をすることで、学級の実態に合わせた授業の工夫や個に応じた支援を行うことができた。

本研究では、４月に行ったＱ－Ｕの結果から、班学習活動にＣＳＳを導入することで、学級のルールを定着させ、安心感が広がる認め合える人間関係づくりを行った。また、居心地のよい学級集団づくりでは、ＳＧＥを取り入れた。研究を進める中で、変容する実態を把握し適切な支援につなぐために形式的評価・総括的評価として２回Ｑ－Ｕを行った。

その結果、学級の状態は満足度が高まる方向へと変化したことが客観的データに表れ、担任の観察の裏付けとなった。